

上高地・蝶ヶ岳クリスマス登山報告

2012年12月22～24日

金子晴彦

岡山移住に先立ち、これまで8年にわたって毎年クリスマス休暇に冬山を登ってきた仲間と上高地経由蝶ヶ岳を目指した。

松本からは新穂高温泉行きのバスがあり、途中1時間15分で釜トンネルの目の前の「中の湯」に停車。雨が降っているがそこからトンネルに入り、すぐさま歩き始められる。何と言う便利さ。下車したのはたった6人。雪も氷も無い(ただし風は強い)コンクリの乾いた道を歩く。長さ1.3km、高度差140m、20分ほどの、脚ならしに最適のトンネル道だ。2002年7月に完成したと言うが、がっしり、スマートな壁で、さすが岩剥き出しの旧釜トンとは大違いだ。



雨もよいの不機嫌な様子の大正池 13:00

トンネルを抜けると谷は開け、明るい世界が広がるものの小雨模様。凸凹ではない平滑なコンクリ道に調子づき、各自てんでんばらばらに歩き始める。久しぶりの重荷を背負ってどれだけ歩けるかを試したい気もある。大正池ホテルまで1ピッチ。分厚い雪よけ板で囲われた玄関のひさしの下で先行組が休んでいたところ、後続はそれに気付かず、そのまま進み河童橋までノンストップで行ってしまった。休憩組はそれに気付かず、ややして「おかしいぞ」と道を戻って探したりして、結局40分近くロス。馴れのせいか、老化のせいか、互いのコミュニケーション問題が露呈する。

冬の上高地は憧れの地だったが今回が初めての入山となった。
釜トン抜けて延々と歩く難儀と、その先の山の厳しさが足を遠のかせていた。
それなのに、目的地が名前も優しい蝶ヶ岳となると途端に脈絡も無く決定した。
ついでに常念も、と欲張り、当初計画は蝶ヶ岳までテントを上げると言う、
あとから思えば大変野心的なものだった。

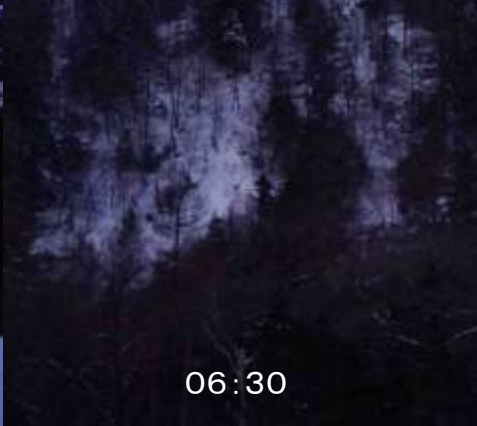


穂高の見えないうら寂しい上高地 14:20



初日は大正池ホテルでの行き違いさえ無ければ徳沢までは行けたかもしれない。しかし、コミュニケーション問題発生で、予定通り、誰もいない明神で幕営。それが結局は良い結果をもたらしたのかも知れない。あたりはひどく寒い。さすがに白い王国。積雪20cm。





クリスマス寒波襲来と言うことで気をもんだが、夜は満天の星。しかし、さすが3日目には好天は期待できなからうと言うことで、2日目の計画を大修正、明神から一気に蝶ヶ岳頂上往復にした。12時間以上歩くがテントを担いでうるつくりは良からうとの判断だ。

初日の宴会もそこそこ6時半にはシュラフにもぐりこんだ。夜は冷え込みマイナス15度、久しぶりの本格的寒さに白い王国を実感。翌朝は大快晴。3時起床、4時半出発、横尾近くなつてようやく夜が明け、朝日に染まる前穂正面と北尾根が見え始めた。



07:10

夜が明けると前穂、次いで屏風岩が姿を現す。さすが白い王国の千両役者。
雪をまとって傲然と見えを切る屏風の威容に圧倒される。
登る気力は無いとは言え、壁の冷たさと固さが痛いほどに感じられる。



橋の上に屏風の頭がのしかかる

07:30

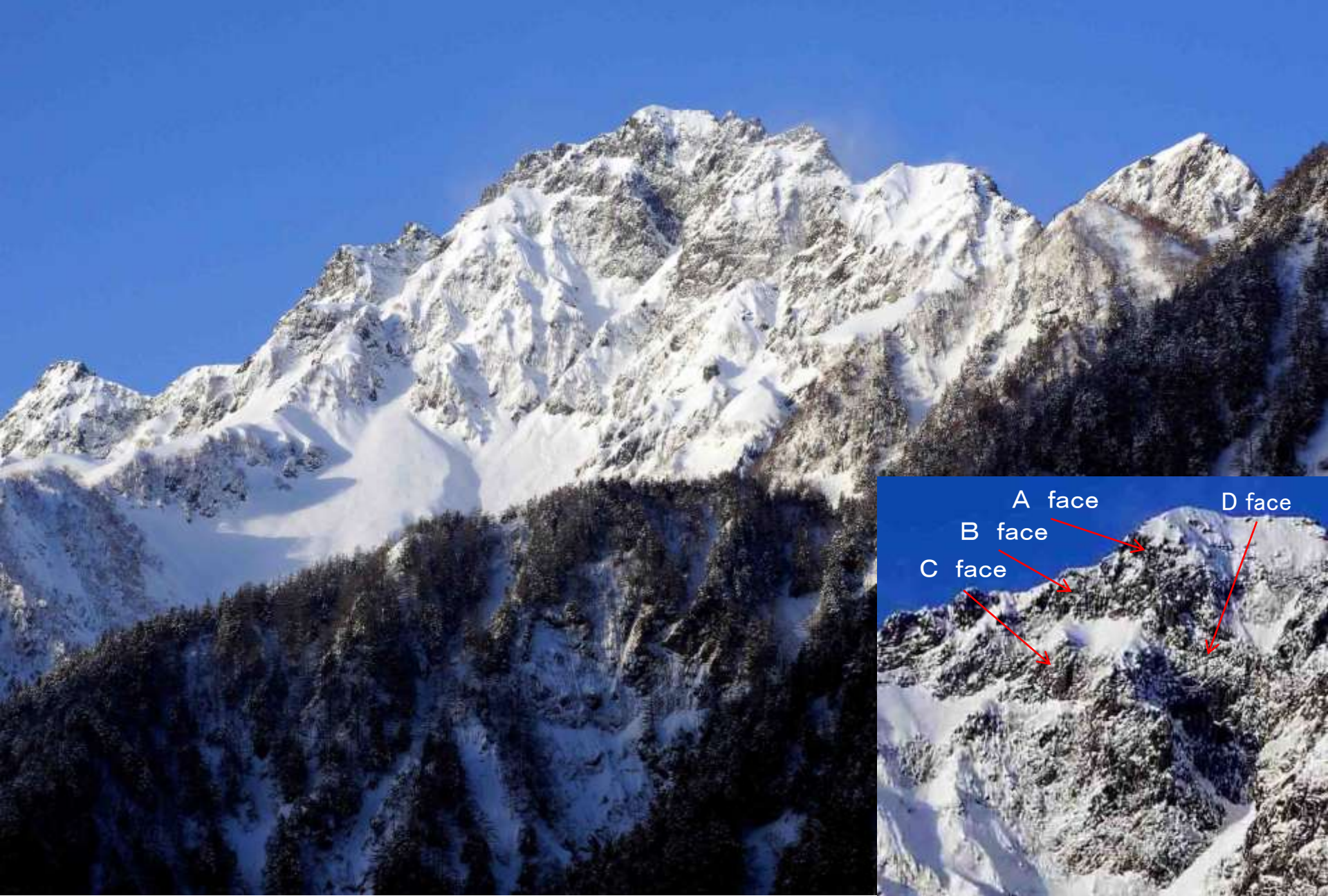
梓川沿いの道は延々と長い。徳沢からは人が少ないせいか雪の踏み跡が狭くなり、くねくねとして歩きにくい。雪道の表面は凸凹なので、足を接地するたびにくるぶしの回転で体の平衡をとらなくてはならない。若い筋肉には容易でも、いささか古く、固くなってきた筋肉にはつらい作業だ。結局明神から横尾まで3時間ほどかかった。これをテントを担いでやって来ていたらもっとかかっただろう。

涸沢に向かう橋の上に踏み跡は無い。正月前のクリスマスにはここでもさほどの人は入らないらしい。では蝶ヶ岳への踏み跡はいかに？ 小屋前から真新しいワカンのあとが続き、右手の山の中へと向かっている。ありがたや、今日の長丁場を考えればほっとする。左の槍ヶ岳方面には白い雪面が広がっているだけだ。真に険しい方向へは道は無い、自分で開けということだ。



07:15

横尾の冬季小屋はあいていて中にテント一張り



左手頭上遥かに連なる前穂正面と北尾根が朝日を浴びて輝いている。A, B, C, Dフェイスは全く雪もつかず黒々としている。これだけくっきりと見えるのは雪のせいだ。「氷壁」の舞台を雪煙が飾り、岳人たちの苦闘が偲ばれる。



08:20

トレースは蝶ヶ岳へ向けてしっかりついており天気も続きそうだ。30分ほど登ると赤い岩が目立つ赤沢山の頂上が横尾尾根の向こうに見えて来る。そしてほどなく、その左に驚くほど鋭い槍ヶ岳が雄姿を現す。槍見台なるものがあるとは聞いていたがその手前のことで思いがけない出現だった。天に突き上げる穂先の鋭さは尋常なものではない。山とはやっぱりこうでなければならぬなどと思いつつ見惚れた。ふと香港のシャープピークを思い出す。





08:30

そのさらに左ではこちらの高度が上がったせいか、雪もよせ付けず黒々とした屏風岩がいよいよ高く立ちあがり、圧倒的なスケールを見せつつ巨大な影を横尾谷に落としている。その奥では南岳が対照的にゆるやかな白い斜面を見せている。大キレットは屏風岩の影で見えない。久しぶりに見る白い王国の巨人たちのわくわくするような輪舞だ。



赤沢岳から屏風岩までの稜線を眺める。
槍を中心にして何と見事なリズムだろう。
山を登るとはこのリズムに乗って軽々と羽ばたくことだ。



08:55

明神から川沿いを3時間歩き、それから登り始めたせいか、急な尾根道はなかなか辛い。雪が次第に深くなり時折ズボリと足がはまる。ゼーゼーと息を切らしながら足を抜く。

09:05

09:45

時折樹間から見える槍の雄姿に慰められながらひたすら我慢して登る。40分登ると槍沢の底が見えるようになる。もっと登れば、さらに何が見えるのだろうか？。しかし同時に、登りきれぬだろうか？との弱気もちらほら湧き始める。これが登山。





09:55

槍の切っ先の鋭さはどうだ。写真ではこの形は幾度も見ているのだが鋭さから伝わって来る緊張感は現場だけのものだ。世界には何故こんなものがあるのか。その驚きが世界への愛着を深める。白い王国がその機会を与えてくれる。ぼくは歩きながらその驚きをしっかりと胸に刻む。



09:55

登り始めて約2時間半、対岸の前穂が正面から見えるようになってきた。
酒沢側から5. 6のコルにめがけて雲が上がっている。悪天の兆しか？



横尾から4時間半でようやく稜線に出かけた。ところが天気予報通り、一帯ではその30分ほど前から暴風雪が激しくなり、樹林帯から抜け出して、稜線伝いに頂上に行けるような状態ではなくなっていた。

いささか残念だが、見事な景観を満喫できたので「良し」として下山することにした。これにてクリスマス登山は終了。

回れ右をするとアイゼンを付けて直ちに下山開始。ほんものの猛吹雪には手も足も出ない。ひたすら下り、1時間半で横尾。横尾の避難小屋には1パーティーがいて、ぼくらの少し前に登頂、稜線からの穂高を見たそうだ。チョット残念。さらに1時間半ほどで徳沢。出発以来11時間、さすがに疲れた。その徳沢ではまるで稜線のような猛吹雪が吹き荒れていた。無人のテントが2張あったが、寒すぎる。明神に向かうトレースはすっかり消え、目も開けられぬほどの雪つぶての中を心細い思いで川沿いを進んだ。





吹雪は荒れ狂うばかり。
ひたすら我慢で明神へ。



白い王国訪問はどうにか成就した。しかし、ほんの入り口から王国を眺めたにすぎない。核心部へ入り込むには相当な覚悟が必要だ。翌朝、ホッとした思いで明神神社への参道を歩き、橋の上から梓川を眺めた。盛んに川霧が上がっている。



明神池手前の梓川。

07:15





明神のピークには7時過ぎから朝日が当たり始める。明神館は「朝焼けの宿」と自称しているが確かに軒下から見事な朝焼けが見える。一番奥の主峰がまず光り、光は第4峰、第5峰へと次第に南下する。



07:10



07:25



07:45

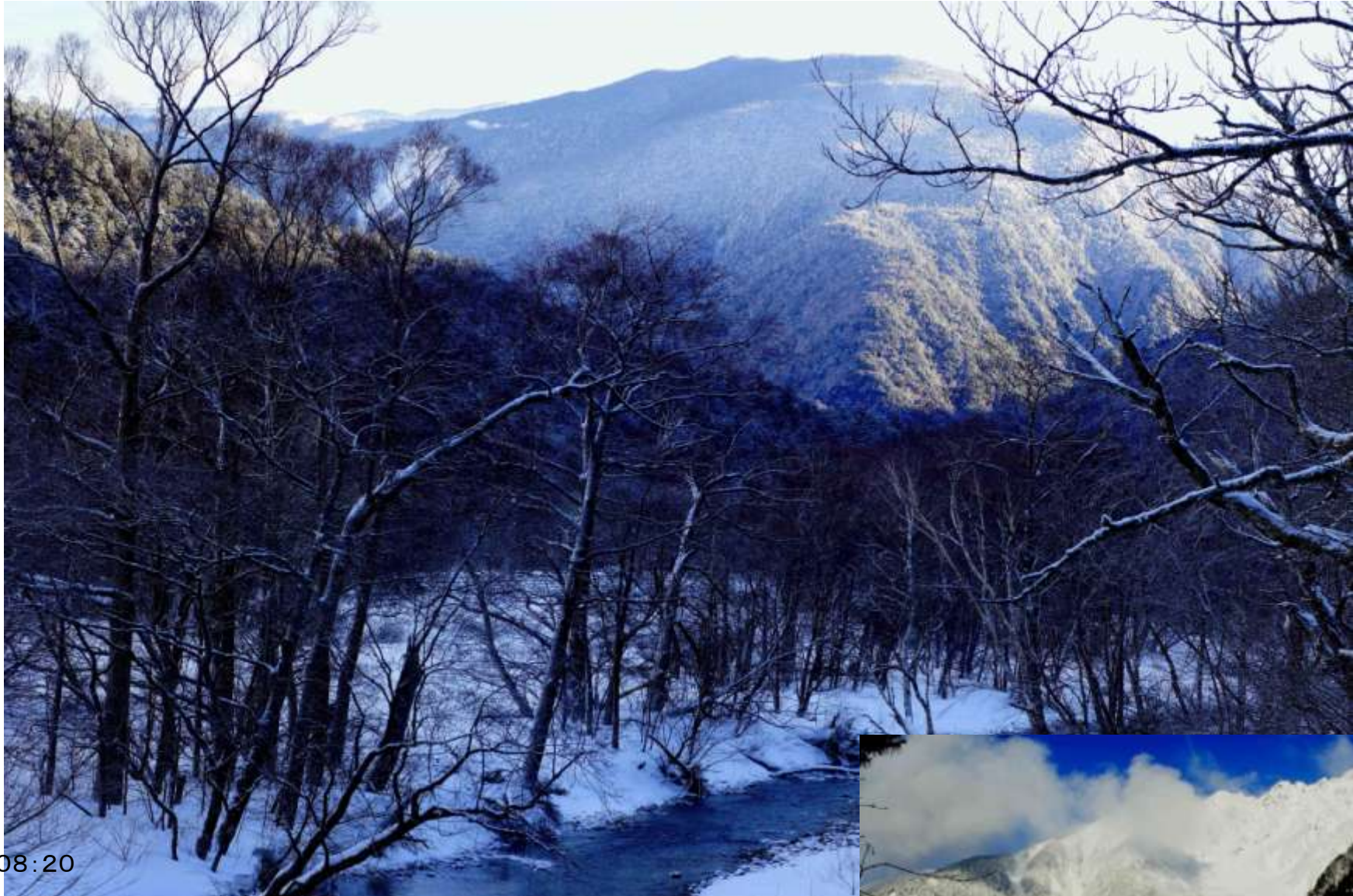




明神がこれほど急峻で見事な稜線だったとは認識していなかった。
改めて針葉樹の記録を読み返すことにしてバイバイ。
次はいつか？ あるのか？



梓川沿いの雪道を下る。一筋の踏み跡があるだけで夏の人だかりは嘘のようだ。
兎が縦横に歩きまわっている。



08:20

夏の緑深い梓川に馴染んでいるせいか、白一色の景色は冷たく寂しい。
流れの色も鮮やかな色彩はなく、暗く沈んでいる。
真っ白な樹氷をまとった山が際立つ。



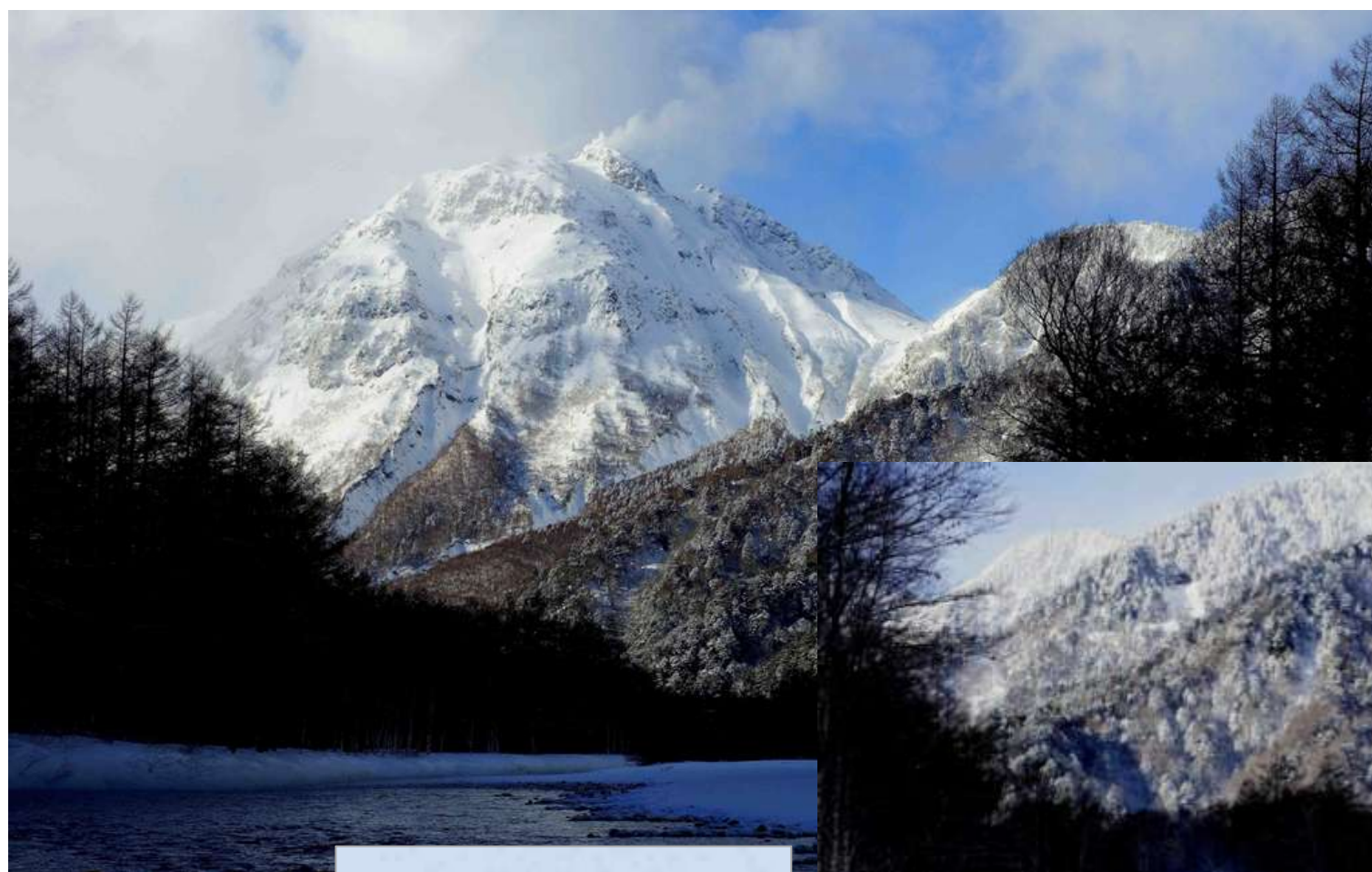
08:25



09:20



明神から1時間10分で河童橋。天気を期待したが昨日同様早くも黒雲が流れ始め奥穂は見えない。しかし、白い王国の見事な見納めだ。



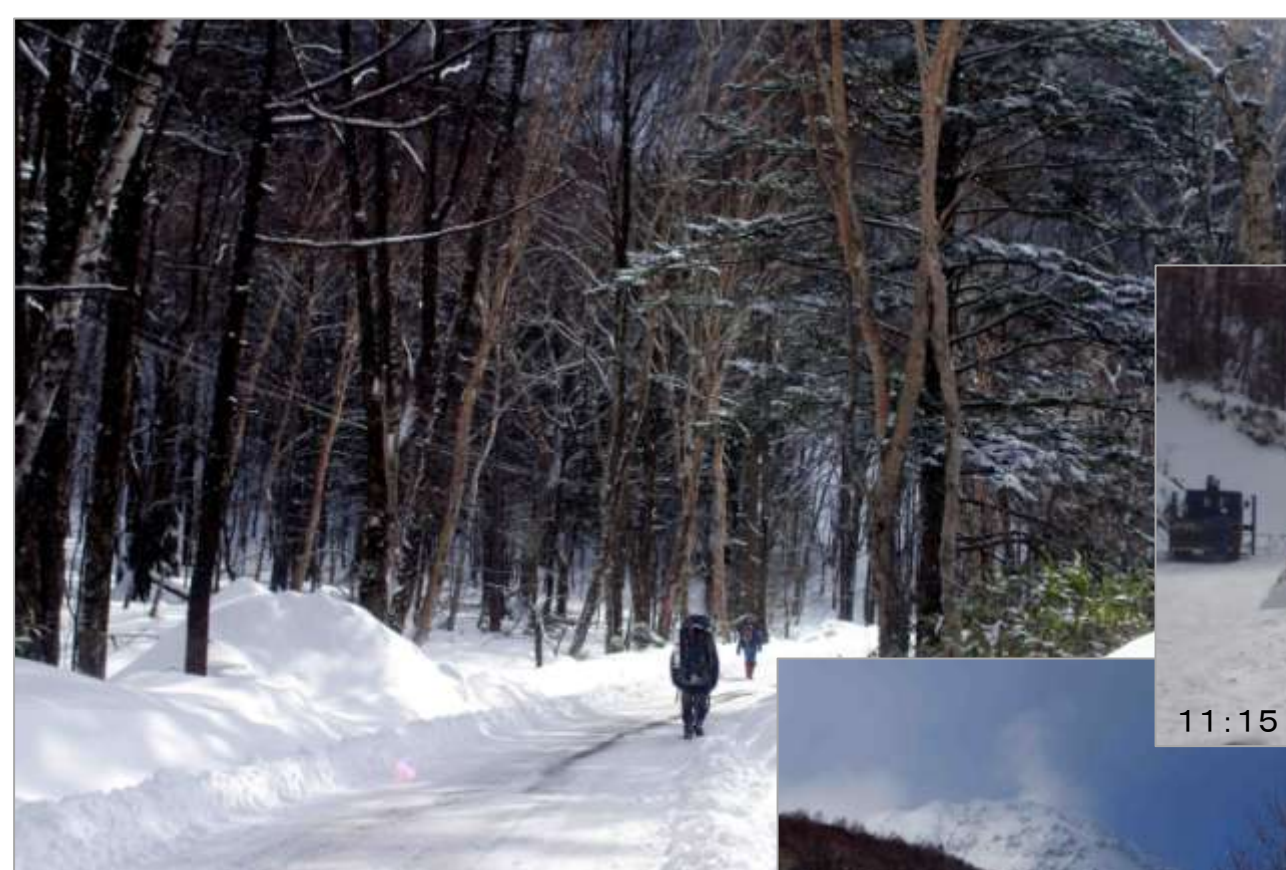
河童橋の下の梓川に真っ黒な鳥が一羽、流れに乗って下ったり潜ったりして、何かをとっている。遊んでいるようでもある。対岸に上がったところを狙うと2つの黄色い目でこちらをにらんだ。一体お前は何と言う名の鳥だ？（カワガラスと言う）ともかく見送ってくれてありがとう。バイバイ。



あこがれの帝国ホテルの脇を通る。暖炉の前でゆっくりワインとステーキと思うが冬は閉館。想像の中の豪華ディナーを思いながらどしどし歩く。



09:50



大正池の末端を回り込むと正面から日が射して来る。ぐっと里が近づいた気になる。来る時はおき出しだった舗装道路には雪が積もり、固く凍っていて滑りやすい。

釜トンネルの入り口では側壁の土止め工事をしていた。土地の人は雪等お構いなしに仕事に精を出している。白い王国とは全く別の世界だ。



新しい釜トンネルができたのは10年前の2002年。
まるで別世界へ向かう秘密のパイプラインの様な眺めだ。
出口の中の湯まで1.3km、140mの下り。
強い風が下からゴォーと吹き上げて来る。
トンネルを出ると白い王国とは全く別の世界が待っている。進みたくないような、、





ほぼ30分で白い王国の外へ出た。出口の脇に土産物屋がありビールがある。早速乾杯。その下の梓川は温泉の影響で赤さび色。

橋を渡った対岸にはその温泉を引いた貸し切り温泉がある。これを中の湯と言うのかと思えばト伝の湯とか。残念ながらバスの時間が真近く、今回は諦め、将来を期す。

ここで白い王国は幻の世界となった。

了

11:40



1. 行程

2012/12/22 雨のち曇り

松本 着9:46 数分遅延 松本発 10:25 アルピコ交通 中ノ湯 11:40着 12:05発
釜トンネル出口 着12:30 大正池ホテル 一部の人休憩、山本は通過
上高地着 13:35 河童橋 14:28 合流 明神館 着 15:18 幕営

2012/ 12/23 晴れのち雪

起床 3:00 明神館発4:27 徳本峠入口 4:34 徳沢着 5:23 発5:35 新村橋 5:54
横尾 7:17着 7:38発 槍見台着 8:27 発8:42 休憩 9:22 発9:40 佐野さんと別行動
蝶ヶ岳付近稜線 着 12:07 発12:22 横尾着 14:04 新村橋 15:05 徳沢着 15:27 発15:39
徳本峠入口 16:26 明神館 着 16:32
行動時間計 12:05 実働時間計 10:33

2012/12/24 晴のち曇り

起床 5:30 明神館発 8:04 河童橋 9:26 上高地BT 着9:35 発9:50
大正池着 10:43 発10:53 中ノ湯着11:40 発12:15 アルピコ交通
松本着 13:30 発14:25 JR普通列車 甲府 16:22 16:53 高尾着 18:44
行動時間計 3:36 実働時間計 2:58

3日間合計 行動時間計 18:54 休憩時間計 2:56 実働時間計 15:58

2. 交通費

東京＝松本	3,890(運賃) +2,310(特急料金)
松本＝中の湯	4,100
松本＝東京	3,890
	合計 14,190